



全校研究だより

第4号

令和6年11月12日（火）

青森県立青森第二養護学校 研修部

9月13日（金）、青森県総合学校教育センター特別支援教育課より森山貴史指導主事と加賀谷紀指導主事をお招きし、令和6年度校内研修会を行いました。

今年度の本校の研究主題である「『主体的・対話的で深い学び』の視点を踏まえた授業づくり」をテーマに、授業改善の視点について多くのポイントをあげていただいたので紹介したいと思います。

必要な教師力

- ① こどもの姿や発言を丁寧に見る、聞く（捉える）
- ② こどもの思いや考えを理解する（解釈する）

学びの「見取り」

こどもの学びを捉え、解釈する教師の行為
→ こどもの行動や発言の背景を理解し、その意味を深く考えなければならない
→ 表面だけではない確かな見取りが大切である

- × 「教師の指導」の視点を中心とした授業研究会
 - 「こどもの学び」の視点を中心とした授業研究会
- 参加者による解釈の共通部分を見つける

「より確かな学びの姿」＝「学びの真実」…より良い指導の在り方を検討！



「深い学び」の考え方

- ・ 「知識・技能をつなぐ（関連付ける）」こと
- ・ 内化よりも外化を重視
- ・ 授業の終末における「振り返り」が重要

主体的・対話的で深い学びの主語は『こども』

授業改善を学習者の視点と授業者の視点から

教育委員会が作成している授業の指針の主語は『教師』

主体的・対話的で深い学びは単元などを通して実現

【校内研修会後の先生方の感想より】

- ・ グループごとに分かれた際の講演、助言内容が具体的で大変学びが多かったです。
- ・ 「事実と解釈を分けて考える」という言葉が印象的だった。
- ・ 他の教師との時間を見つけて、授業のことや子どもたちのことをもっと話し合いたいと思いました。
- ・ 日々の授業を大切にしていかなければならないと感じました。
意見交換の時間が多く設定されていて良かったです。
- ・ 「対話」の解釈の幅を広げることが大切だと感じました。

